

*ペンテコステの日、悔い改めた者は3千人。彼らは集まって生活した。教会の原型である。この原始教会の姿のキーワードは「共有して分かち合う」ことであった。何を共有していたか。

1. キリスト…彼らの人種、国籍、住所、氏名、性別、職業、年齢など多種多様であったが、「キリストにある」という共通のアイデンティティがあった。
2. みことば…「使徒たちの教えを堅く守り」イエス・キリストに関する正しい教えを使徒から学び取り、行っていた。み言葉に生きていた。
3. 恵み…「交わりをし」神に生かされ、養われ、赦されている恵み。その体験を共有し、分かち合っていた。
4. 聖餐…「パンを裂き」主イエスが行えと命令された聖餐。キリストの十字架の恵みを目に見える形であらわし、信徒の家で共にあずかった。
5. 礼拝…「毎日、心を一つにして宮に集まり、」「神を賛美し」神を崇めるころを共有していた。クリスチャンの基本である。
6. 祈り…「祈りをしていた。」人数が多くても少なくても、イエス・キリストの名において集まるにはイエス・キリストがいてくださる。祈りは教会のいのちである。
7. 物…「一緒にいて、いっさいの物を共有にしていた。」(2 : 44 ~ 45)

自分の持ち物や財産を差し出した。それは先ず全部神にささげた。それらを必要としている人々や事柄に分配して主の御心のままに用いた。

*これらのことを共有して分かち合っていたことが教会の本来の姿である。

我々も、これらにかなっているかを常に吟味したい。しかし、教会が教会の外の人たちにも理解され、受け入れられなければ、私たちのしていることは自己満足であり、孤立してしまう。教会は内の素晴らしい交わりを喜ぶと同時に、外に向かってもその喜びを伝えていくことに心を砕かなければならない。

「すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」(使徒 2 : 47)